

特集 健康長寿

声かけて地域ぐるみでがん検診 ～ 9月はがん制圧月間です～

全国の死因のトップは「がん」で全死亡数の約30%を占めています。がんを予防するためには一次予防（生活習慣の改善）と、二次予防（早期発見・早期治療のための検診）が効果があるといわれています。生活習慣を見直し、がん検診を受け、早期発見・早期治療に努めましょう。

図1 平成20年度勝山市のがん部位別死亡状況

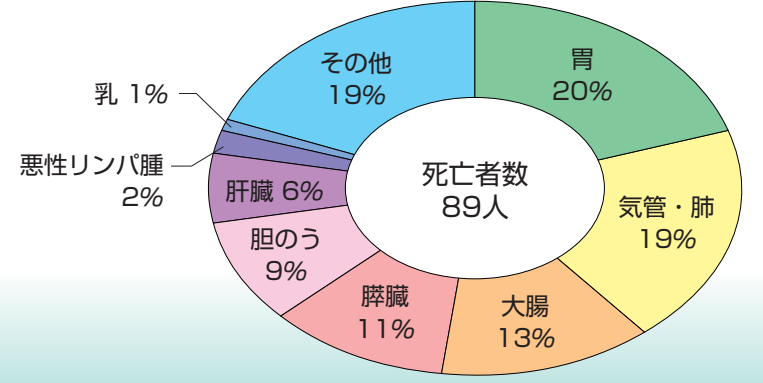
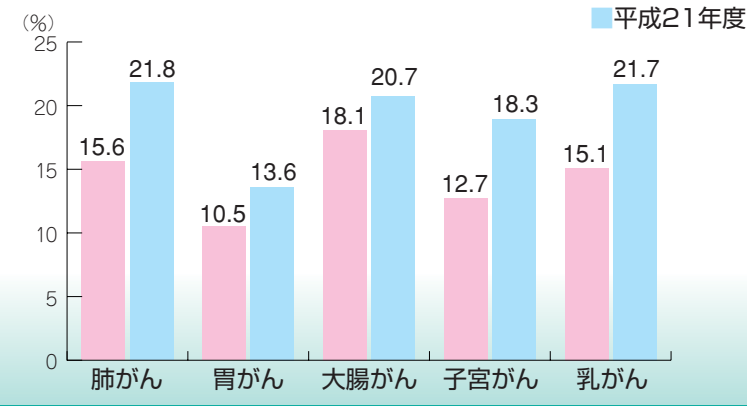


図2 がん検診受診率



■勝山市の死亡原因状況

平成20年度の勝山市の死亡原因の第1位は「がん」となっており、4人に1人は「がん」で亡くなっています。また「がん」の部位別死亡状況では、1位は胃がん、2位は気管・肺がん、3位は大腸がんとなっています。（図1）市において、がん対策は急務となっています。

■勝山市のがん検診受診状況

市では、胃がん・大腸がん・肺がん・子宮がん・乳がんの5つのがん検診を実施しています。がん検診の受診率向上を目指し、平成21年度からは検診料を無料とし、公民館などの会場では無料送迎バスを運行しています。各検診の受診率は図2のとおり、平成20年度に比べて平成21年度はいずれも向上しています。

■がん発見者数の状況

平成17年度から21年度までの5年間で検診を受けたかたで、がん発見者数は表1のとおりです。受診率が高い大腸がん検診や乳がん検診での発見者数が多くなっています。

表1 がん検診受診者のうちがん発見者数

平成17年度～21年度		人数
肺	が ん	5人
胃	が ん	2人
大腸	が ん	11人
子宮	が ん	0人
乳	が ん	8人

■検診無料化を ねんじ「受けやすい」

今年度から、従来の集団検診に加え、5つのがん検診が全て県内の医療機関でも受けられるようになりました。また、今年度初めて肺がん・大腸がん・乳がん検診を9月24日（金）の夕方に実施します。このように、市では働き盛りのかたが検診を受けやすい体制づくりに取り組んでいます。

がんを早期に発見するため、肺がん・胃がん・大腸がん検診を毎年受けましょう。また、子宮がん・乳がん検診は2年に1回は受けましょう。

「自分の健康は 自分で守る！」

～早期に乳がんが発見されて～



松山千恵子さん(66)
=遅羽町比島=

平成17年に市の乳がん検診で、がんが見つかりました。その年は遅羽公民館で初めてマンモグラフィ検査が行われたので、積極的に受診しました。検診受診後、要精密検査という結果が届き、不安を抱きながら再検査を受けました。

結果は初期の乳がん。私の場合、検診ではわからないくらいのがんでした。「初期」と聞いたからか、乳がんと言われても「仕方がないな、あかんならあかん」とあきらめず、再検診を受けました。

手術後、放射線治療とホルモン療法を受け4年半が経過した現在、再発もなく過ごせています。

私は「自分の事は自分で守るしかない」、そういう思いです。検診を受けてきた。検診を受けたおかげで初期の段階でがんを見つけることができた。

「ぜひ、 がん検診を受診して！」

保健推進員協議会長
立平 孝子さん



今は、友達にがん検診の受診を勧められています。また検診で要精密検査となった人から相談を受けることもありま

す。去年から無料で市のがん検診が受けられるようになりました。がんを早期に発見するために、ぜひ、皆さんにがん検診を受けていただきたいと思いま

す。勝山市には86名の保健推進員がいます。保健推進員は担当地区の赤ちゃんから高齢者までの健康づくりのお手伝いをしていきます。お宅を訪問したり、道で会った人や地域の井戸端会議の時に検診受診をお勧めしたり、健康

について話したりしています。以前は、保険外交員と間違えられたこともあり

ましたが、保健推進員活動について地域の人にわかってもらえようになっ

てからは、そのようなことはなくなりました。

保健推進員の活動の一つにがん検診受診勧奨があります。チラシをおいてくれるだけではなかなか受診につながりませんが、直接会って受診を勧めると「検診の日を忘れていた」と言っ

てくれることがあります。

以前、ある夫婦に「公民館で検診があるので忘れずに受けてください」と声をかけました。その人は検診を受け、早期のがんが発見され今も元気でいらっ